

特別企画

戦禍を逃れて一年 ウクライナ避難者が自ら語る 「いま」、「これから」

2/18 **土** 13:30-16:00
(終了後、交流・情報交換会あり)

場所：コモレ四谷タワーコンファレンス (四ツ谷駅徒歩1分)

ロシアのウクライナ侵攻から1年。ヨーロッパには750万人、日本には約2,200人が避難者として生活しています。YMCAは、世界各地で避難者支援を行い、日本ではこれまで全国800名の支援を、来日から生活・自立支援まで行って来ました。

今回、YMCAが支援の中で出会った4名の避難者が、自らこの1年を振り返り、戦争により突然変わってしまった生活、日本社会で壁にぶつかりながらどのように生きて来たか、その心のうちを語ります。想像以上の長期化を見据え、「就業」「教育」「メンタル・医療」「生きがい」といった切り口で、支援団体・行政の第一線で活動する者が応答し、共にこれからを考えます。



第1部 13:30-15:00

「ウクライナ避難者が自ら語る “いま”、“これから”」

1. ウクライナ避難者をめぐる
全体概況報告 (日本YMCA同盟)

2. パネルディスカッション

〈登壇者〉
都内で生活する
ウクライナ避難民4名 (詳細裏面)



コモレ四谷タワーコンファレンス

第2部 15:15-16:00

「私たち日本社会が問われていること」

パネルディスカッション

〈登壇者〉

横山由利亜 (公益財団法人日本YMCA同盟ウクライナ避難者支援プロジェクト責任者)
村田陽次 (東京都生活文化スポーツ局 都民生活部 地域活動推進課 課長代理)
小野一馬 (NPO法人ビューティフル・ワールド理事/大分県にて避難民受入れ)
櫻井佑樹 (AAR Japan認定NPO法人難民を助ける会プログラムコーディネーター)

第3部 16:00-17:00

交流・情報交換会

[主催] 公益財団法人 日本YMCA同盟

申込方法

下記フォームで氏名、所属先、参加希望 (第1部・2部・3部)、
連絡先を2月15日 (水) までにご連絡ください。

<https://forms.gle/msbN5TpwCGBsaw4K7>

[定員] 50名



第1部パネリスト紹介

(登壇者は状況により変更の可能性があります。ご了承をお願いします)



Y.B さん

キーウ出身 (40代・女性)

息子を頼って来日。本国ではIT会社を経営し、オンラインで現在も継続。避難者と企業をつなぎ自転車、PCなど生活に必要な物資の収集提供などを行う。避難をしているエンジニアが経済格差や休業で本国の仕事を続けることが難しいため、日本企業に就労できる研修コースや起業を企画中。

A.Y さん

ムイコライウ (南部) 出身 (40代・女性)

息子を頼りに小学生の娘と来日。小学校の教員で一日も欠かさず本国の子どもたちのためにオンラインで教鞭をとる。生徒は世界各国におり、「子どもたちが急に大人びてきている」「アイデンティがゆらいでいる」ことに危惧を持ち、「子どもらしい時間」を創り出すことに熱意を注ぐ。日本のソーシャル・ワークにも興味関心。

N.N さん

ハリコフ出身 (40代・女性)

カウンセラー。母子で旅行中に戦争となり知人を頼って来日。ウクライナ、ヨーロッパの顧客のカウンセリングをオンラインで継続、不調を訴える日本の避難者の相談にも乗る。「世界のどこにいても、元の生活には戻れない」という現実と直面したとき「何を指針に生きていくことができるか」、当事者として考えて続けている。

M.Z さん

ハリコフ出身 (30代・男性)

身寄りのない避難民”として、日本政府の支援で来日。(海外出張のため成人男子だが出国が可能に)。日本語を熱心に学習し、コンビニエンスストア等で働くが、言語及びビジネススキルを身に付けて適性やキャリアに合った仕事と生活基盤の安定化を模索。数少ない男性避難者が直面する(兵役忌避の)罪悪感や、孤立感とも向き合っている。



「子どもが日本の学校になじめていない」「父親を忘れてしまうのでは」「高校や大学受験についての準備や学費が心配」

避難者の声から

身元保証人と「関係が切れてしまった」、「考え方が合わない」、「迷惑をかけたくない」

「家族を呼び寄せたいがいまとなっては(VISAや支援が)難しい」

「医療システムが違い、持病や体調不良のケアが難しい」「日本に友人がほしい」「男性が孤立、飲酒」

「倉庫やコンビニの仕事がいつまで続けられるか」「キャリアや専門性を生かした仕事をあきらめたくない」「地方都市はチャンスが少なく、なじみにくい」

「ふいに涙が出る」「自分たちだけ安全であることに罪悪感」「本国の支援、日本への恩返しをしたい」

第1フェーズ

第2フェーズ

第3フェーズ

第4フェーズ

時期	2022年3月～	2022年5月～	2022年7月～	2022年12月～
形態	来日避難 緊急支援	生活スタートアップ支援	生活個別支援	中長期滞在定住支援
概要	ヨーロッパYMCAと連携し、ウクライナからの出国から来日までの支援、空港出迎えや国内移動の補助、ホテルでの隔離、住宅への案内などという一連の支援を継続する。5月がピークとなったが、戦禍激化を受け現在でも来日避難の相談は続き、一つ一つ対応し、178人の来日を支援している。	住居手配から保育園探し、日本語学習の機会提供など日本での生活をスタートするための支援を展開。交流・学びの場、居場所「Ukraine Café HIMAWARI (四谷)」をオープンし、物資支援、猛暑対策などを伝える生活講座や無料バザーなどを実施。ウクライナ語で読める児童書を集めた図書館「HIMAWARI 文庫」の開設と運営を開始した。	都営住宅などへ個別訪問を実施し、ヒアリングによるニーズ把握と支援策とのマッチング支援を展開(現在も継続)。「キャリア相談」「ハローワーク・病院同行」「子どもの宿題サポート」等、各家庭の個別支援から、体調不良につながる心のケアの取り組みなど、多様な支援活動を行う。	秋から大規模な攻撃によって避難の中長期化を覚悟せざるを得ない状況となる。就業、子どもの教育、本国の家族との関係など人生設計に関わる相談事項が増える。罪悪感や未知な将来への不安と向き合いながら、日々の生活、日本のコミュニティとの橋渡しなど多岐にわたる対応を行う。

YMCAウクライナ避難者支援プロジェクト

3月当初から、ウクライナから日本への来日避難を、グローバルネットワークを用いて展開。4月には在日ウクライナ大使館から依頼を受け国内の避難者支援、7月からは東京都と協定を結び、都内に集中する避難者(現在、およそ550名)の生活の見守りを行う(「東京都ウクライナ避難民マッチング支援事業」)。これまで個別訪問・面談を行って来た避難者は800名を超える。

民間NPOとして、これまでの国内外の人道支援・災害支援のノウハウをベースに、一貫して一人一人に寄り添い、人間同士の深く、そして息の長い支援を行う。



ウクライナ避難者支援
@日本YMCA同盟
ツイッターアカウント



<https://twitter.com/YMCAHELPUKRAINE>